

峰山学園学校運営協議会だより

令和7年3月発行 第4号 峰山学園学校運営協議会事務局(峰山中学校内)



第3回 協議会の中で今年度の歩みを振り返りました

2月26日(水)に峰山学園第3回学校運営協議会が峰山中学校で行われました。今年度最後となる会議でもあったので、1年間の峰山学園の歩み(後半期を中心に)、児童生徒アンケートの結果、学校関係者アンケート結果も踏まえた成果と課題を事務局から報告しました。また、各校園からは、子どもたちに付けた力をどのように育ててきたのか、特徴的な事柄を踏まえて報告し、中学校の授業の様子も動画で紹介しました。また、峰山学園の歌とロゴマークが完成し、披露しました。全体会での報告事項終了後の協議は小学校区ごとのグループ編成とし、成果と課題を学園全体のものとして次年度に引き継げるように協議しました。

各グループでの協議より

※園長先生・中学校の校長先生には各小学校のグループに入って頂きました

【峰山小学校区】グループ



峰山小学校は、子どもたちの将来を見据え、「多様な人々と協働し、個性と能力を発揮して主体的に生きる力」を育てることを大切に教育活動を展開してきました。行事も子どもたちの「やりたい」を形にしていくために、思いを結集し子どもたちが立案、計画、実動、振り返りの過程を大切にしています。

・平田オリザさんの講演を聞いた。セッションの時の生徒の姿が素晴らしかった。授業も一斉授業からの脱却、参加型の授業に代わってきており、自分の思いをどう伝えるか、コミュニケーション能力、考えて動ける姿を目指していることが伺えた。峰小の

秋祭りでの子どもの姿とも重なり、学園として目指す姿がこども園から小・中学校へと繋がっていると感じている。
・峰山学園の教育目標や子ども像の実現に向け、異年齢の関わりや繋がりを大切にしていることが分かった。少子化の中、異年齢で関わるのが少なくなっている。異年齢での関わりは社会に出た時の力に繋がる。このような取組を進めてほしい。
・アンケート結果で「将来の夢が73%で低い？」との見解もあったが、今の段階では気にする必要もないのではないかと。夢に対する選択肢も増えてくる。実際の将来の夢はもっと高2、高3、大学の頃になるのかもしれない。
・「ふるさとを愛し」の言葉が児童像に入っていないので、入れてほしい。アンケートは抽象的な聞き方になるので「自慢できますか?」「知っていますか?」などの聞き方でもよいのではないかと。



【しんざん小学校区】グループ



しんざん小学校では、峰山学園の教育目標の具現化に向けて *考えて行動する *言葉を大事にする *自分なりに表現する の3点を指す子ども像の姿として設定し教育活動を進めました。子どもたちを繋いでいく上でコミュニケーションは重要なツールの一つとなります。その大切さを子ども達に日常生活の中で考えさせながら歩みを進めました。

・言葉がコミュニケーションのツールとして子どもも大人も正しく使われているだろうか。大人自身も言葉に気を付けることが大事だ。

- ・小さい頃の経験、子育てが大事で、子ども、大人、地域、保護者、学園として共通の取組が必要である。
- ・授業も「教える」だけではなく「楽しい」を実感させるものが必要。こども園の遊びや経験を小学校の活動に繋げなくてはならない。
- ・保護者、地域の人にも、今の授業観や指導観を周知していく必要がある。子ども自身が選択や判断できる環境整備を行うための教師や大人の声掛け、支援が必要である。



※令和8年度から長岡小といさなご小の適正配置に向けての動きがスタートすることを踏まえ、合同でグループを編成しました

【いさなご小学校・長岡小学校区】グループ



いさなご小学校では「人と関わる力の育成」の達成に向けて、授業づくりや学級づくりを進めています。子どもたちが主体的に活動できるよう、行事の取組もどうしたらみんなが楽しむことができるか、知恵を出し合いながら取組を進めました。

地域との関わりも深く、日々の見守り活動や伝統行事などにも支援頂いています。

長岡小学校では人権尊重を基盤とし、あらゆる教育活動を通して一人ひとりを大切に教育を推進しました。合言葉は「やってみよう ありがとう 何とかなる ありのままに」とし、繋がり、成長し合う人間関係づくりを目指しました。

また、地域人材の活用による「ふるさと学習」の充実を図りました。

・いさなご小学校、長岡小学校、共に「繋がり」を大切にしているので、保幼小中一貫教育で大事にしてきた「段差解消」の取組を活用して進めていくことが大事ではないか。少人数の長岡、人数が多くなってきているいさなごの人数差による段差(大小)解消に向け、遊びや一緒に学ぶことを取り入れて交流を図っていくと良いのではないかと。両校が融合できるとよい。

・繋がりが深まる取組を進めていく。子どもたちは仲良くなるだろうが、子どもたちの不安を取り除くことが大事だ。子ども主体で進めていく。

・新コミュニティのねらいは色んな人に関わってもらうこととしている。吉原では夏休みに小学生の事業を開催し、そこへ中学生、地域の人に参加できればと考えている。コミュニティの推進と学校が連携できると良い。

・吉原小からいさなご小になった。昔は学校と一緒に地域は運動会をしてきた。長岡小は今でも区と一緒に運動会をしている。PTAの交流はできるが、地区としての繋がりができないものかと考える。

・子どもは好きなことに没頭できる。これからの学校への期待値は大きい。知識をどう使うのか。子どもは遊びはいろいろ考えて工夫ができる。新コミュは10年、20年先を見ている。その子たちがやってくれるような道筋を作るのが新コミュだ。



～次年度の取組で大事にしていきたいこと～

- * 峰山学園の取組や子どもたちの状況を、もっともっと地域の人に知ってもらうことが大切。今の教育、どんな子どもを育もうとしているのかを積極的に地域に周知できるよう、広報を積極的に行う。
- * 地域の中にある学校として、地域力も借りながら社会総がかりで子どもたちの力を育む。新コミュニティの取組ともコラボしながら地域力を高め、子どもたちのふるさとへの愛着心を育む。
- * 峰山学園で大事にしていることを、園から小、小から中学校へと貫いていく。異年齢の取組を大事に園小、小小、園中、小中など、学校間の交流や取組を大事に一体感をもって峰山学園の取組を進める。